



## 地元小学生による「田んぼの学校」

農業総合センターでは毎年「田んぼの学校」を開いています。東日本大震災が起こる前の平成22年までは地元の小学生が田植え、稲刈りを体験していました。しかし、震災後は放射性物質に対する不安などもあって、平成26年までの4年間は開催することができませんでした。

しかし、平成27年になって、近隣の郡山女子大学短期大学部の食物栄養学科の学生さんたちによって再開され、そして、震災後6年を経過した今年、小学生による「田んぼの学校」を復活させることができました。

私は「田んぼの学校」の完全復活には大きな意味があると考えています。大切な児童を預かる小学校の先生方、また保護者の皆さんの中で小学生が田んぼ仕事をして健康には影響を及ぼさないのだという認識が遍く広がったことです。これまでは、安全といわれていても、福島県で生活する人であっても心情的に受け入れにくい状況にあったのですが、それがなくなってきたということです。もちろん、そのためには関係者の本当に地道な取組があったことを忘れてはなりません。あとは、県外の消費者の皆さんにも福島県の農産物が安全で美味しいことをわかっていただき、風評被害が払拭できればと思っています。



さて、「田んぼの学校」は季節外れの暑さのもと、5月23日に行われました。

田んぼの土が気持ち悪くて中に入れられない子、アメンボが怖い子など、最初は田植えどころではありませんでしたが、慣れてくると、植える速度も速くなり、45分程度で1アールの田んぼが「天のつぶ」で埋まりました。

これから、田んぼの生き物の観察、稲刈り、脱穀、試食と全部であと4回センターに来てくれます。

私たちも子供たちの歓声と感性をしっかり受け止めて、これからの活動をしっかり行わなければいけないと感じたひとときでした。

